

福島県立視覚支援学校・福島県立聴覚支援学校福島校

【発行所】

福島県立視覚支援学校・
福島県立聴覚支援学校福島校
後援会

〒960-8002 福島市森合町6番34号

TEL 024-534-2574

FAX 024-533-2470

E-mail fukushima-sb@fcs.ed.jp

後援会会報

第14号

「あたたかい優しい ご理解ご支援に感謝して」

福島県立視覚支援学校・聴覚支援学校福島校 後援会長 西山 尚利



会員皆様には本会の活動に深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、今年度は昨年4月から9月までの半年間は新型コロナウイルス感染症拡大によりストレスの溜まる不自由な生活が続きましたが、10月からは感染症も落ち着き、先生方のご尽力のおかげ様で、視覚支援学校・聴覚支援学校福島校で学ぶ幼児・児童・生徒に、いつもの笑顔・いつもの日常が戻って来たことに何よりもほっとしておりました。ここにきて再び感染拡大がみられていますが、「新しい生活様式」の中で、一人一人が自分自身を守るため・一緒にいるみんなを守るため思いやりや共助の心を、ワクチン接種などを通して学んだことと思います。現在、治療薬やマスクなどの開発や研究が県立医科大学で進められており、一日も早い実用化が実現することを望んでおりますが、どのような状況にあっても、自分の目標に向かい学習・体育活動に励み、生活全般にわたり充実した時間を過ごすことが出来ますことを願っております。

子どもが学校や地域・社会で共に学び、共に生きる教育を推進するという理念のもと、これからも後援会活動を続けてまいります。引き続き、学校教育の充実発展のため、後援会活動に対しましても一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

皆様にとりまして平和な優しい温かい一年となりますようお祈りいたしましてご挨拶いたします。感謝

「今日も元気です！」

福島県立視覚支援学校長・聴覚支援学校福島校分校長 橋本 淳一



後援会会員の皆様には、日頃より、障がいのある幼児・児童・生徒の教育活動に深いご理解と温かいご支援をお寄せいただいておりますことに、心より御礼と感謝を申し上げます。

福島県立視覚支援学校と聴覚支援学校福島校においては、昨年度から感染症対策を十分に心がけながら、子どもたちの学ぶ機会が制限されないことを念頭に、教育活動を行って参りました。東北地区や全国規模の大会等においては、中止やオンラインでの活動となってしまいましたが、こ

うしたなかでも、視覚支援学校においては小中学部の東北各視覚支援学校を結んでのオンライン交流授業、聴覚支援学校においては保育所や小学校との交流行事や本分校合同の修学旅行など、新たな取り組みや工夫した行事などが行われ、子どもたちの学びを深める事ができたと感じております。このように、子どもたちが社会とつながりを持ちながら、安心して教育活動を行う事ができるのも、会員の皆様をはじめ、多くの方々のご理解があってこそと思います。依然としてコロナ禍にある中で、皆様に来校いただける機会は少なくなっておりますが、今年度も皆様からは多くのご支援をいただいております。本会報をご覧いただき、活動の様子に思いを寄せていただければ幸いです。

「子どもたちは今日も元気です！」会員の皆様のご多幸をお祈りいたしますとともに、今後も変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。



教育活動報告



会員の皆様よりいただいた会費は、視覚支援学校・聴覚支援学校福島校の教育活動の中で、有効に使わせていただいております。ここでは、多くの補助を受けて実施された教育活動の中から、学校行事での幼児、児童生徒の様子を紹介いたします。

小学部 「ゆかいな虫たちの発表会」～学校祭～

3年に一度のしゃくなげ祭が開催されました。虫が大好きな小学部児童5名は、「虫」をテーマにそれぞれが国語や生活科、音楽等の学習で取り組んだことを発表しました。大きな声でセリフを話したり、自分が見つけた虫のヒミツをクイズにして問題を出したり等、自信をもって堂々と発表することができました。最後はみんなで虫や虫博士にへんし～ん！元気いっぱいのダンスに、会場の皆さんから大きな拍手をいただき、児童も大満足でした。

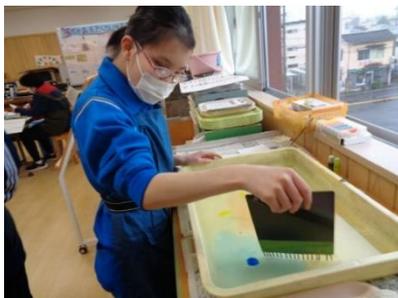
(小学部主事 高橋 和代)



中学部 「校内実習の様子から」

後期の進路週間に、3年2組の生徒が校内実習を行いました。点字新聞をリサイクルし「福ポチ袋」の作製に取り組みました。高等部と合同で実施することで、先輩たちが取り組む姿に触れ、高等部の先生方を含めた多くの「所員」との協働を通し、「働くこと」への関心をもち、自分の「仕事」への責任を感じながら取り組む姿が見られました。「丁寧に取り組もう。」「自分の仕事が皆のためになるんだ。」そんな実感を味わうことのできた貴重な学習となりました。

(中学部主事 志賀美保)



高等部普通科 「クリスマスジョイントコンサート2021」

昨年度12月、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となってしまった「幻のクリスマスジョイントコンサート2020」が、今年度復活して福島高等学校、橘高等学校、そして新たな仲間として大笹生支援学校の生徒を交え行われました。今年度は、本校の生徒から交流校の生徒へ向けた、心を込めた歌とプレゼントを直接送ることができました。

(高等部普通科長 大友 洋平)



高等部理療科 「臨床体験発表会」

12月23日(木)に令和3年度臨床体験発表会が昨年度と同様に2部構成で行われました。第1部は理療科生徒による5題の発表でした。2年生を中心とした2題の発表では、日頃生徒自身が感じている症状をきっかけに、マッサージの効果や鍼とマッサージの効果の比較について発表がありました。また3年生は、今までの実技や臨床実習について詳細に振り返り、その時に良い点、改善点などをまとめや先行研究を踏まえた内容、また臨床実習を通して様々な施術方法を学ぶ中で、東洋医学的な評価や施術方法について、一人の症例を通してじっくりと考察した内容など、まとめにふさわしい発表が行われました。

続いて後半のシネメデュケーションでは、「ブラックジャック」を題材に、「仕事はお金か？ 名誉か？ 生き方か？」、「信頼される医療者とは？」、「医療の役割は？」などをテーマにグループディスカッションが行われました。普通科生も含め、生徒それぞれが意見を出し合い、活発な意見交換が行われました。さらにグループ発表の際にはジャムボードを活用し、各グループの内容を大型ディスプレイに写しながらそれぞれの意見を知ることができました。今年度も充実した臨床体験発表会となりました。(高等部理療科長 小池 佳郎)



聴覚支援学校福島校 幼稚部「秋の遠足」・小学部「合同学習発表会」

幼稚部は、10月22日(金)に秋の遠足を実施しました。果樹園でりんご狩りを楽しんだ後、十六沼公園の遊具や室内練習場でたくさん遊びました。美味しいお弁当も食べ、大満足の日となりました。

小学部は、11月20日(土)に福島市立福島第四小学校と合同学習発表会を行いました。小学部8名で力を合わせて美味しいサラダを作ることで、みんなの気持ちを明るく元気にする劇「みんな元気になあれ」を堂々と発表し、大きな拍手をもらいました。

(聴覚支援学校福島校教頭 大竹奈保子)



たくさんの温かいご支援・ご寄付ありがとうございます

令和3年12月16日(木)に、福島中央ライオンズクラブ様から両校への教育用品贈呈式が行われました。視覚支援学校へパーキンスブレイラー1台、聴覚支援学校へカホン2台とミニキーボード2台のご支援をいただき、両校の児童生徒ともに存分に活用しております。

また、伊達市保原町工業団地懇話会様より多大なるご寄付をいただきました。児童生徒の学びや健やかな成長への、温かなお心遣いに感謝申し上げます。



令和3年度



会費等のご協力をいただいた方々及び団体等（敬称略）



今年度も、在籍している幼児児童生徒の保護者の皆様にご協力をいただきました。ここには、ご協力いただいた旧職員の皆様及び特別会員・関係団体の皆様のみ記載させていただきますので、ご了承ください。（個人については五十音順に記載）

伊達市保原町工業団地懇話会
 株式会社福よし
 守工業株式会社
 株式会社三宅新聞店
 社会福祉法人あおぞら福祉会 菊の里
 株式会社トヨネスト
 有限会社大野建築設計事務所
 福島テレビ株式会社

阿部 稔也	小野 誠子
阿部 教夫	加藤 由香里
荒牧 美穂	菅野 典子
安藤 俊典	菅野 美恵子
石川 浩	櫛田 省吾
海野 薫	熊谷 トモ子
江口 和子	栗村 美智子
大井 弘子	古関 綾子
大谷 典子	小檜山 宗浩
小野 祥一郎	齋藤 和也

齋藤 裕子	千代 則子
齋藤 洋之	千代 行雄
齋藤 浩之	中村 雅彦
桜井 礼子	七宮 弘暁
佐藤 健一	二瓶 睦
佐藤 浩士	二瓶 恵美子
佐藤 正雄	芳賀 孝美
嶋原 弥	原 江理歌
宍戸 英樹	原田 道久
庄子 紀子	宝槻 千賀子
鈴木 健一郎	宝槻 久和
須田 博行	堀江 静子
須田 康仁	本田 富治
平 祥江	武藤 永治
高橋 里子	村上 卓
高橋 富士子	望木 昌彦
田嶋 まゆみ	柳内 泰二
谷口 隆	藪内 敬子
丹野 功一	渡部 佳代子

渡部 経子
 渡邊 葉子
 各市町村
 会津若松市
 いわき市
 大玉村
 郡山市
 鮫川村
 白河市
 相馬市
 伊達市
 天栄村
 西郷村
 二本松市
 福島市
 本宮市

トピックス

視覚支援学校卒業生の2020パラリンピック選手である佐々木真菜さんと半谷静香さんが学校を訪れ、後輩からのたくさんの質問や要望に応じてくださいました。HPにも詳しく掲載しています。ぜひご覧ください★

編集後記



日頃より本後援会にご理解とご支援をいただき、感謝しております。本紙面を通して幼児児童生徒の様子と本会の事業内容についてご理解いただければ幸いです。これからも本会活動充実に向けて努力して参りますので、今後ともご支援をよろしく願いたします。